

第1学年 総合カリキュラム

総合学習「生命を育む私達の地球～よりよい未来のために～」

第1学年担任団：福田 正 恒・藺 部 幸 枝・井 上 雅 登・佐々木 善 子

1. 総合学習を始めるにあたって

本稿で報告するのは、2006年度入学の第1学年における「総合I」（以後「総合学習」と記す）の実践についてである。

今回、第1年次の総合学習を始めるにあたり、担任団で検討したことは次の2点である。

① この中学3年間で取り組んでいくのに耐えられる「大テーマ」を設定する

② 「生徒祭」を総合学習のスタートの絶好の機会と位置づける

①に関しては、今までの総合学習では学年ごとにテーマを設定することが多かったのに対して、3年間の活動の軸となる一貫した「大テーマ」を設定することで、内容的な深まりや視野の広がりを意図してのことである。

②に関しては、従来本校では、後期に入ってから（10月末～11月初め頃）総合学習を本格的に始めることが多かった。もちろん、前期での「生徒祭」に向けた活動も総合学習として取り組まれてきてはいるが、この生徒祭の活動と後期からの総合学習は、テーマ的にも切り離されて実践されることが多かった。後期に入ってから、総合学習のテーマを話し合い、次にそのテーマに沿ってどのような形態でどんな活動をするかを検討し合い、そして実際の活動を行い、それらのまとめと発表を行うというのは、スケジュールの上でもかなりあわただしいといえた。そこで今回は、前期での「生徒祭」に向けての活動を、これから3年間で積み上げていく総合学習のスタートとして一層強く位置づけることで、後期の総合学習とのつながりも明確になるし、時間的にも余裕をもって活動できると考えたのである。

2. テーマの設定について

(1) 総合学習ガイダンス

次に示すのは、生徒達に提示した「総合学習ガイダンス」のプリントである。

2005年度 第1学年

2005. 5. 31(火)

総合学習について

みなさんは、「総合学習」ということばを聞いて、どんなイメージを持ちましたか？

小学校の時に「総合的な学習の時間」という名前でのいろいろな活動や学習をしてきた人もいるでしょう。「総合学習」は、基本的には小学校での「総合的な学習の時間」を発展させたものともいえますが、お茶中の「総合学習」には、次のような特徴があります。

① 総合学習は、学年全体で協働して取り組む学習です。

「自主研究」は、各自が自分の研究テーマを決め、個人で取り組む学習です。

それに対して、「総合学習」は、学年全体で大きなテーマを決め、クラスやグループで協働しながら取り組む学習です。さまざまな考えを持つ仲間どうしが話し合うことで、新しい考えを見つけることができます。また、一人では無理な活動でもみんなで協力することで可能になったり、一人ひとりの力を合わせて大きな活動に発展させることもできます。「総合学習」は仲間どうしが協働してさまざまなことにチャレンジする学習です。

② 総合学習は、いろいろな活動ができる学習です。

机に座って本を読んで調べるだけが、「総合学習」での活動ではありません。学校の先生以外に専門家のお話を聞いたり、外の関連施設やいろいろな場所に出かけて調査したり、自分たち自身で社会のためになる行動を起こしたりなど、自分たちでいろいろな活動方法を考え、それを実行することができます。また、活動内容をまとめたり、発表したりする方法も、自分たちで考えることができます。

③ 総合学習は、生徒自身がテーマや活動内容を決めて取り組む学習です。

「総合学習」のテーマは、私たちを取り巻く社会や自然、さまざまな人々がともに暮らす世界全体です。そして、そこから具体的にどんなテーマに取り組むかは、基本的に生徒自身が決めることとなります。社会に関する大きなテーマをもとに、自分たちが取り組みたい内容を自分たちで決めていくのです。

でも、「生徒自身がテーマを決める」といきなりいわれても、学年全体で取り組むテーマを決めることはなかなか難しいでしょう。そこで、先生方が提案したい大きなテーマが「京都議定書」です。今年の2月に発効された「京都議定書」は、地球規模のさまざまな課題をたくさん含んでいます。それらの課題に対して、私たちはどんなことをすべきなのか、どんなことができるのか、学年全体で調べたり活動したりできたらすばらしい「総合学習」になるのではないかと考えています。

また、今年は、この「総合学習」の最初の活動を、「生徒祭」での1年のクラス参加とい

う形で取り組んでみようと思います。今年の「生徒祭」のテーマは、「愛・お茶中万博」で、地球の環境問題などとも関連があります。1年生では「京都議定書」を共通の大きなテーマにおき、具体的にどんな内容でどんな風に取り組むかは各クラスで考えます。また、発表の仕方もクラスごとに工夫をこらして、たくさんのお客様に楽しんでもらえたら、「総合学習」のスタートとしてステキな経験になることでしょう。

上のプリントを読んでもわかるように、ガイダンスの時点では、テーマ決めに関しては正直苦しい説明をしている。即ち、「総合学習では生徒自身がテーマを決める」という一方で、教師側から「京都議定書」を大テーマとして提案したのである。

テーマに関しては、一から生徒達自身に考えさせ決めさせるか、それとも教師側からある程度基本になるものを提案するか、学年の教師集団の中でも議論をした。その議論を通して、必ずしも「京都議定書」そのものをテーマのスタートに置かなくてもいいこと、むしろ、3年間の総合学習で取り組んでいくのに耐えられるテーマとしては、もっと大きな視点から捉えさせた方がよいと考えるようになった。

(2) テーマに関するアンケートの実施

そこで、教師側から総合学習のテーマを考えるとときの視点を示し、そこから生徒たち自身がどんなことがら（テーマ）に取り組みたいかを考えさせ、その考えをアンケートに答えてもらうことにした。また、教師側がその視点を示す際は、生徒達がイメージしやすいように、各担任から自分の経験談や知識なども適宜おりまぜて説明した。下に示したのが、そのアンケートである。

生徒祭で取り組む「テーマ」に関するアンケート

1年()組()番 名前()

*今年の「生徒祭」に、1年生は「総合学習」のスタートとして取り組みたいと思います。担任の先生の話聞いて、あなた自身が総合学習のスタートである「生徒祭」で取り組んでみたいテーマ、ことがらを自由に書いてください。ただし、次にあげる視点から考えてみましょう。

<テーマを考えるとときの視点>

- ・今現在、世界的に（地球規模で）問題になっていて、なおかつ自分たち自身とつながりを持ちながら社会に問いかけていく必要があることがら。
- ・今だけでなく、自分たちが大人になっていく社会の中で問題となると予想されることがら。
- ・今でも、将来的にも、現実の社会の中で問題になりうると思われることがら。

(理由)

このアンケート結果をもとに8人の評議員（総合学習責任者）がテーマを絞りまとめたものが、次の資料1である。また、これをもとに各クラスでテーマを話し合ったが、梅組の話し合いの記録が資料2である。

(3) 学年統一テーマの決定

各クラスの話し合いの結果を受けて、評議員の会合で学年統一テーマについて話し合った。次に示すのは、その会合の記録である。

2005年度第1学年生徒祭総合学習 評議員会合 第2回 記録 2005. 6. 8 (水)

今日の議題：「6/7のクラスの話し合いの結果を受けて、学年統一テーマ原案を決める」

1) 各クラスのテーマ報告

T：発展途上国（ユニセフの活動も含む）

R：環境（グループごとに小テーマを決めて）

K：環境（小テーマで班ごとに）

U：環境と発展途上国（国々に分けて、どのくらい貧しいのか、環境はどうかを考える）

2) 大きなテーマについて

・私たちの生きてゆく未来について・・・サブタイトル必要？

・発展途上国と環境について

・子供たちが住みやすい地球

↓

*教師側から、各クラスのテーマも考慮し、それらともう少し関連づけてとアドバイス

↓

キーワードを出そう

・よりよい未来（～）

・地球 生物

・命を育む 生命

↓

・よりよい未来をめざして

・「よりよい未来」という贈り物を 世界の人々（みんな）へ

・ 地球 と 生命 によりよい未来を

（環境） （発展途上国）

・住み良い地球へ ～よりよい未来のために～

↓

*このあたりで採決し、票の多かった2つを融合させた次のテーマを原案とすることに。

「生命（いのち）を育む 私たちの地球 ～よりよい未来のために～」

資料1や資料2、上の評議員会合の記録だけでは実際の生徒たちの話し合いの様子が十分に表現されていないかもしれないが、クラスでも評議員会合でも活発に意見のやり取りが行

われ、その結果生徒達自らが一つひとつの言葉を吟味して選び、学年統一テーマとして創出したのが「生命を育む私たちの地球～よりよい未来のために～」であった。この原案が後日のクラスの話し合いで承認され、こうして学年統一テーマが決定した。

3. 生徒祭総合

学年統一テーマのもと、各クラスでそれぞれのテーマとゴールを話し合っで決めた。

テーマを考えるときは、「クラスでどんな生徒祭にしたいのか?」「何のために、だれのために、どんなことをしたいのか?」などのイメージを自由に出し合わせた。また、ここで言うゴールとは「テーマを実現するために具体的にどんなことをするのか」であることを説明して、具体的にやることの詳しい内容や展示・発表のスタイルや方法について考えさせた(資料3と資料4参照)。

資料3 <各クラスの生徒祭のテーマとゴールについての話し合いの記録>

クラスのテーマ (1J) **<先日の話し合い記録> 2005年6月28日(火)**

クラスのテーマ... 世界に3人の投票
環境問題... 地球環境
... 自然環境に学ぶ。
... 発展途上国を取りまくる地球環境
... 発展途上国を取りまくる地球環境
... 発展途上国を取りまくる地球環境

ゴール=テーマを実現するために具体的にどんなことをするのか
-ここでは、具体的にやること(詳しい内容)
-展示や発表のスタイルや具体的な方法について考える。

・映画(自分で選んで、プレゼンテーションにおくる)
・展示(ポスター作成など) → コラボレーションなど
・模擬体験(実際に発展途上国の地球を作ったり)
-その他

(決定)

クラスのテーマ (1K) **「生命の母 地球を守れ」**

ためになる、楽しい、分かりやすい、見ていて人があきない、見たい人への
に残る、即度のある対応、真実に取り組む、自分も関心を持つ、
近代史を考へてもらうような(小目標) 地球環境

温暖化(CO2)、酸性雨、オゾン層、汚染、絶滅、戦争、病害、
難民(内容) 人間環境

人は自然にまかされた地球... にどうするか、これを目的として、自然環境を破壊し、
人間が地球にまかされたがために、多岐にわたる問題、SOS、かかると地球環境が
生命の母地球を守れ、地球の涙を止めよう

ゴール=テーマを実現するために具体的にどんなことをするのか
-ここでは、具体的にやること(詳しい内容)
-展示や発表のスタイルや具体的な方法について考える。

クラスのテーマ (1B) **地球は激怒した日**

環境破壊などについて よく知らない人、興味が ない人に
対して 地球環境のことを 楽しみながら 理解できるように
工夫したいと考えている。

ゴール=テーマを実現するために具体的にどんなことをするのか
-ここでは、具体的にやること(詳しい内容)
-展示や発表のスタイルや具体的な方法について考える。

① リサイクル } 発表方法
② VTR・ポスター }
③ ゲーム・不気味 }

① リサイクルについての
実験などもする
② 「デ・アグター・トロ・ロ」E
ももに? 自然環境を
③ 環境についてのゲームを
する。ゲームの別ゲー

クラスのテーマ (1T) **「安心してくれる発展途上国～幸せという贈り物へ」**

・発展途上国と日本を比べた
・僕達は何が出来るか
・ユニセフの活動
・各国の現状
・環境があたえている影響
・私達(国)のためにできること
キーワード: 発展途上国・ユニセフ・私達(国)ができること
(環境)問題・NGO・困難

ゴール=テーマを実現するために具体的にどんなことをするのか
-ここでは、具体的にやること(詳しい内容)
-展示や発表のスタイルや具体的な方法について考える。

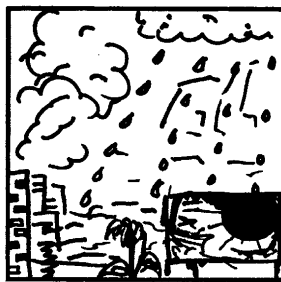
・貧しい人を幸せにする(国)
・安心してくれる(国)
・発展途上国の贈り物
・貧しい人への贈り物

また、前・私達(国)にできること、ユニセフやNGO(国)のためにしていること
・困難を克服(国)について、ユニセフやNGOの活動

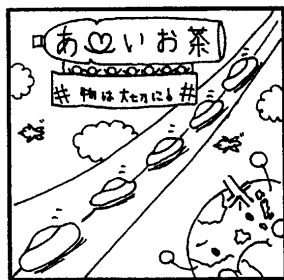
資料4 <生徒祭パンフレットに掲載された各クラスのPR文>



発展途上国助け隊 竹組
 1Tは発展途上国について発表します。それは途上国の人々の悲惨な気持ちを皆にわかってもらいたいからです。



地球救えるかもよ!? K
-DASH 菊組
 汚染、絶滅、酸性雨の三つに分けて展示と体験コーナーを創りました。地球を考え、皆で救っちゃいませよ!!



あ〜いお茶 南組
 私たちはよりエコロジで近未来的な地球になるための秘密を皆さんだけに伝授しちゃいます 頑張りましょう!



SAVE THE EARTH 梅組
 未来の地球を想像してみよう。この教室では未来の地球を作り出します。かなり実感できるのでぜひ来て下さい。

4. 生徒祭総合を終えてのテーマの振り返り

生徒達にとって初めての生徒祭は、学年統一テーマを時間をかけて決めたり、クラスでも色々話し合ったりしただけあって、趣向を凝らした楽しい展示・発表内容になっていた。

この生徒祭総合の成果を、次の総合学習にいかにつなげていくかが大切となる。そこで、次の総合学習に移るに先立って、生徒祭総合を振り返るアンケートを実施した。その結果、みんなが決めた学年統一テーマ「生命を育む私たちの地球 ～よりよい未来のために～」に関しては約8割の生徒が「良かった」と答えている。また、この学年統一テーマにこめた自分達の思いや考えがどれくらい伝えられたと思うかという点については、各生徒の印象はまちまちではあったが、それでも約半分の生徒が80%以上伝えられたと答えている（資料5を参照）。

総合学習の大テーマ（学年統一テーマ）を設定するにあたり、教師側が「テーマを考える上での視点」を示したとはいえ、生徒達自らが考え、アンケートに答え、意見を出し合ってみんなで決めていった意義は大きかったと考える。もし、最初の予定のように教師側からの「京都議定書」という大テーマで進めていたら、学年統一テーマを良かったと評価する割合もそれほど高くなかったかもしれない。そして何より、もし学年統一テーマを生徒達自身が決めていなかったら、そのテーマにこめて自分達の思いや考えを伝えるということが果たしてどれだけできたらうか。このような意味でも、生徒祭をその後も続く総合学習のスタートの絶好の機会として位置づけ、生徒祭と絡めて大テーマをじっくり考えられたことは評価できると思う。

また、担任団の一人（理科の教員でもある）は、7月12日付けの学年通信（生徒祭に向けて

各クラスで準備が進められている時期に発行)の中で次のような文章を書いている。

私は日頃「地球にやさしい」という言葉は、少しふさわしくないと思っています。地球によって生かされている私たちは、地球に対してやさしいと言える立場にないからです。また、私たちが生きていること自体、地球環境に負荷を与え、影響を及ぼしています。その負荷を少なくすることが「やさしい」という言葉に置き換わるはずがないと思うからです。しかし、負荷を少なくしようという気持ちは大切にしたいです。

生徒祭学年テーマ「生命を育む私達の地球」は、うまい表現で気に入っています。私たちが今こうして生きていられるのは、地球46億年の歴史があるからです。DNAという物質が生命の暗号をつくり、その暗号に従い生命が形作られ活動する。また、そのDNAは自身を存続させるために、ただ単にコピーして増殖してだけでなく、新しい組み合わせをつくり、地球環境の変化に耐えうる可能性も持たせるシステムも兼ね備えています。その中で、多くの種類の生命が誕生し、絶滅もしてきました。そんな中、355億年も長い時間、DNAは様々な生命となって綿々と生きながらえてきました。隕石の衝突や、気候の大変化にも耐えて。

しかし、現在のヒトの活動は、これまでの自然現象の中で起こった大変動とは違う変化を地球に起こさせてしまう可能性があります。それを何とかい止めようと、第1学年の生徒祭に向けてのテーマが決まったように思います。

この文章を読んでも、生徒達が決めた学年統一テーマ「生命を育む私たちの地球～よりよい未来のために～」は、今後も含めて中学3年間で取り組んでいくのに耐えられる大テーマであると再確認できた。

資料5<生徒祭総合を終えてのアンケート結果>

2005.11.8(火)編み

生徒祭学習アンケート

総合学習まとめ

1) 学年テーマについて
みんなが決められた学年テーマはどうでしたか?

- 良かった... 100人
- 良かった... 6人
- どちらともいえない... 25人

「生命を育む私達の地球」
～よりよい未来のために～」

2) 全体をふりかえって
学年テーマ「生命を育む私たちの地球～よりよい未来のために～」
に之めた自分達の思いや考えがどれくらい伝わるかと思いませんか?

100%	... 13人	50%	... 19人
90%	... 22人	40%	... 1人
80%	... 31人	30%	... 1人
70%	... 19人	29%以下	... 6人
60%	... 19人		

集計結果が遅れてすみませんでした。
上記の結果はどりかたか?
これからの生徒祭は学年・学級活動の時もありませんが、
各自の考えには積極的に参加し、
おのれが頑張ります。

評議員 一岡。

5. 校外学習総合（高尾山）

生徒祭総合のあとも、学年統一テーマを発展させるべく、例えば「未来の子どもたちに美しい地球を残そう」と題されたロバート・F・ケネディJr. 氏の記念講演を一年生全員で聴いたり、軽井沢で熊と人間の共生などをめざして活動する団体「ピッキオ」の様子を紹介するビデオ「スポットのすむ森」を視聴したりした。

しかし、次の総合学習は11月に予定していた校外学習と関連づけながら進めようという計画を立ててはいたものの、学年統一テーマとうまく結びつく活動場所がなかなか見つからないという壁にぶつかっていた。幸いにも上述の団体「ピッキオ」の方から、高尾山の高尾ビジターセンターにおけるガイドウォークやスライドなどの自然を対象としたプログラムに関する情報を得ることができた。早速、担任団で高尾山を二回下見し、高尾ビジターセンターのインタープリターの方とも総合学習のねらい等を検討し合ったうえで、12月に高尾山で校外学習を実施することが決定した。

(1) 生徒祭総合から校外学習総合（高尾山）へ

生徒祭総合では、各クラスごとに地球温暖化などの環境問題や発展途上国の問題などに取り組んだ。学年統一テーマ「生命を育む私たちの地球～よりよい未来のために～」のうち、特に「私たちの地球」の部分に重きが置かれていたといえる。

そこで、次の校外学習総合（高尾山）では「生命」の部分に着目してテーマを深めていくことを意図した。また、来年度の第2学年では、7月の林間学校で那須方面に行き、そこで「野生生物との共生」を考えるプログラムを予定している。その意味でも「自然」や「生命」が今後の総合学習のキーワードになると考えた。

(2) 校外学習総合（高尾山）の目標

学年全体でのガイダンスのあと、学年統一テーマをふまえた校外学習総合（高尾山）の目標を、各クラスで話し合った。まず、高尾山での学習で大事にしたいことをキーワードやスローガンなどで表現し、無理に一つにするのではなく、色々な意見を出し合った。次に、各クラスから出された様々な意見を一枚のプリントに集め、それをもとに、今度は目標としてふさわしい一つのスローガンにまとめる話し合いを各クラスで行った。各クラスから出たスローガンは「Mother Earth（竹組）」「多くの自然と向き合い、生命の大切さを実際に学ぼう（蘭組）」「自然を心から感じる（菊組）」「SAVE THE EARTH IN Mt. TAKAO（梅組）」であった。

これらのスローガンについて、評議員会合と各クラスの話し合いのやりとりを経て最終的に決まった目標が、「母なる大地・高尾山の自然と触れ合おう」である。

(3) 校外学習のルールについての話し合い

生徒たちにとって初めての校外学習である。原則として学校生活のルールがそのまま校外学習の場面にも適応されるが、活動場所や活動内容等に合わせて変更すべき（変更した方がよい）ルールもあると考え、生徒達に話し合わせることにした。（生徒達がどのように話し合ったかについては、資料6を参照。）

資料6 <学年通信第36号>

福田学年 学年通信

*お家の方にも必ず読んでいただきましょう。



2005.12.2 (金)
第36号
発行者 佐々木

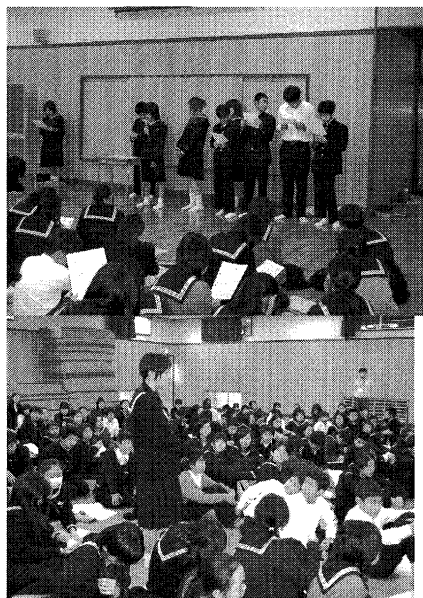
校外学習「高尾山」のルール決定！！

日にちが変わってお騒がせをしましたが、今月の14日(水)は校外学習で高尾山に行きます。学年が取り組んでいる総合学習「生命を育む私たちの地球～よりより未来のために～」の一環として、今回は特に「生命」にスポットを当て、自然の生命を感じたり考えたりする学習に取り組むことにしました。自然の宝庫として知られる高尾山で、どんな体験・学習ができるのか、今から楽しみです。

さて、その校外学習のためのルールについての話し合いが、先週の金曜日の総カリの時間に行われました。

話し合いの議長は、長谷部 君(竹組)と古屋 さん(梅組)。(2人は先月の選挙で当選し、評議員を卒業しました。)最初に、総合学習の実行委員である各クラスの評議員8人が「原案」を提出し、その原案に対して学年のみんなが質問したり、意見を言ったりする形で話し合いをしました。

こちらが予想していた以上に活発に質問や意見が出されました。例えば、評議員はみんながお菓子を食べていだろうと考え、学校の規則とうまく折り合いをつけながら「飴2個を休憩の時に食べてもいい。ただし飴は評議員が買って班長に配る。」という原案を考えましたが、色々な質問や意見が出される中で、結局「お菓子は入らない」という意見(修正案)が出され、それが通りました。また、おみやげを買ったりするためのお小遣いのねだんやスポーツドリンクはいいのか、といった評議員が話し合っていなかった内容に関する質問も出て、それらは結局、次回に持ち越されることになりました。(これについては、今朝の臨時の話し合いで評議員が再度提案し、無事決定しましたね。)



校外学習のためのルールを決めるこの話し合いは、1年生にとって学年全員(134名)で行う初めての話し合いでした。初めてにもかかわらず、活発に発言が出され、それをみんながちゃんと聞いて次の発言につなげることができていました。また、知らず知らずうちに議事進行のために必要な発言もちゃんと出てきていました。すばらしいと思います。

福田先生が最後に行ったことば、「**自分たちがルールを決めるということはとてもすごいこと。もしそのルールを破ることがあったら、この話し合いは水の泡になってしまう。自分たちが決めたルールをしっかりと守ってほしい。**」を忘れないでください。そして、楽しい校外学習をみんなで作っていきましょう。

★お茶中ひろばに新しいページが増えました★

みなさんは、お茶中ひろばを最近見えていますか? 「なかなか新しいページが載らないので最近は見えてないよ。」という人もいたかもしれません。そういう人も、ぜひお茶中ひろばを見てみてください(教室のパソコンでも見られます)。新しいページが増えました。また、色々な先生方が作成したページなので、内容も様々です。もし見たら、感想をぜひ聞かせてください。

(4) 高尾ビジターセンターのプログラム

今回の校外学習総合（高尾山）では、高尾ビジターセンター、特にインタープリターの下村さんの協力が欠かせなかった。担任団が事前の下見で直接話を聞いたり、こちらの希望を伝えたりしただけでなく、メールでも何度となく打ち合わせをすることで、こちらの希望以上のプログラムを準備していただいた。

【こちらが希望したプログラム内容】

- ・高尾山の自然・様々な生き物の生命を感じたり、考える内容。また、私たちの生活とそれらの自然や環境とのつながりを想像できる内容。
- ・このプログラムを体験することで、自分たちの生活が様々な自然や生命と関連していることを理解し、自分たちの生活や行動を見直したり、共生する上で大切なことを考えたりするようになってほしい。

↓

【高尾ビジターセンターによる企画書内のプログラム内容】

ねらい

- ① 野生生物の生活を身近に感じられる
- ② 自然が自分たちの生活や命にも関わっていることに気づく
- ③ 高尾山から見える環境問題の現状を知り、そのために、どのような行動ができるかを考えることができる

アクティビティ

- ・動物のフィールドサインの話を含める（できるだけ多く）：①
- ・環境問題につなげた話を含める（いくつでも可）：③
- ・その他のネタについては、人との関わりを気づかせるもの：②
- ・最後に振り返りを行う（ねらいの達成度の確認）：③
- ・スライドは、ガイドウォークでまかなえない話を標本や写真を用いて実施：①②③

時間配分

大きく2つに分け、一組がスライド+自由見学、もう一組がガイドウォークを実施。ガイドウォークはさらに4つのグループに分け、1グループ17～18人とする。ガイドウォークが終わり次第、スライド組と交代。スライドは約30分、ガイドウォークは約1時間とする。対応合計時間は2時間。

*さらに詳しいガイドウォークの内容に関しては資料7を、校外学習総合（高尾山）に対す

る生徒達の感想に関しては資料8と資料9を、それぞれ参照。

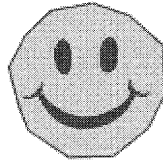
資料7く高尾山ビジターセンター作成のプログラム内容(ガイドウォーク)く

<p>お茶の水女子大学附属中学校 プログラム内容(ガイドウォーク)</p> <p>2005.12.14 自然教育研究センター</p> <p>1班: 4号路コース(伴昌彦)</p> <p>コース 山頂~5号路~4号路(途中で折り返す)~山頂</p> <p>伝える環境問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●海外の森林と日本の森林・日本人の消費生活との関係 渡り鳥の話から、東南アジア、ロシア等の森林伐採に日本人の生活が及ぼしている影響の解説 ●国産材の活用促進等、森林問題の解決に向けた取り組みの紹介 ●道路と環境 4号路から見える中央道を見てもらい、道路の建設が自然環境や人の生活、経済に及ぼす影響にどのようなものがあるかを考えてもらう <p>2班: もみじ台コース(新津紅)</p> <p>コース 山頂~小仏城山方面の石段下り~もみじ台下の木の階段~山頂</p> <p>伝える環境問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人間と自然のかかわり方~登山・観光というレジャーが自然に与える影響 富士山→富士山が見られることで来る人が多い 植栽された植物→見栄えがよい植物が好まれて植えられる 石段→昔登れた斜面が荒れてきたので、整備 もみじ台→もみじは植えたもの もみじ台トレイル→山岳トレイルのシステム(雨水を貯留、洗浄) もみじ台下木の階段の脇→登山道の整備(登山道が荒れる仕組み、現状の対処法とその問題点) <p>3班: かしき谷園地コース(奥村昌子)</p> <p>コース 山頂~5号路~3号路~かしき谷園地~山頂</p> <p>伝える環境問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●オーバーユースによる裸地化の問題 山頂から都心の方角の遠景を見る→人の活動するところほど緑が少ないことを確認 柵を設けた今の様子と、柵がなかった昔の様子→オーバーユースによる裸地化の過程と、その対処、結果どのように緑が回復したかについて紹介。 ●野生動物のもたらず被害 イノシシの掘痕→ヤマユリとイノシシの話、イノシシが増えた理由を考える。 	<p>4班: 5号路コース(穴田親子)</p> <p>コース 山頂~ビジターセンター裏の園地~5号路~山頂</p> <p>伝える環境問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人工林と天然林の違い 5号路の江川杉と4号路方面のイヌブナ林の比較から解説。植林地がもたらす野生動物への影響 ●野生動物のもたらず被害 イノシシの掘痕→ヤマユリとイノシシの話、イノシシが増えた理由を考える。 <p>スライド(下村真理子)</p> <p>テーマ: 動物のフィールドサイン</p> <p>ねらい: 高尾山のさまざまな生きものの生活を知り、そこから高尾山の現状を知る。</p> <p>GW前のグループのねらい: 森の豊かさを感じる (モチベーションを上げる) GW後のグループのねらい: 見られなかったフィールドサインのフォロー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・モグラ モグラ塚・標本: モグラの大きさ、生活の話 2・タヌキ ため糞: タヌキをとりまく問題(疥癬・ゴミ・アライグマ) 3・イノシシ 掘痕・頭骨: イノシシと人間の関係 4・ムササビ 食痕・糞: 高尾山の歴史とムササビ 5・テン 糞: 糞から森の豊かさを知る 6・まとめ 動物たちがたくさん生活することは、その森の豊かさを現す。 例えば… テン→野鳥→青虫→葉っぱ 生態ピラミッドの話 <p>①GW前のグループ 豊かな森は動物だけでなく、人間もその恩恵にあやかっていることを忘れないでください。これから外に出て、必死で生きている生き物たちの知恵や息吹を感じてきてください。そしてその一つ一つに、自分たちがどのように関わっているかを考えてみて下さい。</p> <p>②GW後のグループ 私たちの何気ない生活の中で、このピラミッドを崩してしまうこともある。例えば、私たちが食べている食料を運ぶときに使われる道路も、山を切り開いて作られていたりする。でも、みどりの回廊をつくっている人がいる。反対運動をしている人たちがいる。自分たちには何ができるか考えてみて下さい。</p>
--	---

資料 8 <学年通信第37号>

福田学年 学年通信

*お家の方にも必ず読んでいただきますよう。



2005.12.16 (金)

第37号

発行者 佐々木

校外学習総合「高尾山」

母なる大地～高尾山の自然と触れ合おう～

14日(水)、校外学習総合「高尾山」の本番でした。一番心配だったお天気も、みんなのおかげでまぶしいくらいの青空、晴天!やはり山の上は気温が低くて、手はとっても冷たくなりましたが、ちょっと歩くと汗をかくこともありましたね。

今回の校外学習は、「自然」や「生命(いのち)」について感じたり考えたりすることがねらいでした。フィールドガイドでは、実際の高尾山で生活する動物たちのフィールドサインやめずらしい植物(「しもばしら」を見た人もいますよね)など、実物を見ながら説明を聞いてどんなことを感じましたか。最後の「ハチドリ」の話はどうでしたか。また、もう一つのプログラムのスライドショーでは、皮膚病にかかったタヌキや輪ゴムを食べたタヌキの糞などの写真に衝撃を受けましたが、どんなことを考えましたか。また、モグラの毛の手触りはどうでしたか。(ガイドさんが自分の宝物だと言っていた「イノシシの頭蓋骨」は、富士山でハンターの人が残していったものだそうです。)

昨日、みんなに感想文を書いてもらいました。その中から2人の文章を紹介します。

「高尾山に行って」

菊組 押本

ぼくは、たぶんこれで高尾山に来たのは、三回目だ。でも、前の二回と今回では、「自然を感じる」ということがテーマだったので、ビジターセンターでスライドショーの説明が終わった後、フィールドガイドに行った。今回の高尾山で一番印象に残ったのは、このフィールドガイドで色々な生き物の住んだ跡、そこにいたことを示す物などが見れてよかった。例えば、ムササビの巣の跡、がのまゆやホオノキの香りをかいだりした。ぼくが自分の目で見た自然の跡は、テンのふんの一つで、黒く10cm位で、道ばたに二本落ちていた。高尾山に行けてよかった(つかれたけど)。

「高尾山の動物」

梅組 鈴木

ぼくが高尾山にいる動物の中で一番印象に残ったのは、ムササビです。実際には見えていませんが、体を大きく広げて飛んだりするのがカッコイイなあーと思いました。インタープリターの人が「ムササビはとっても時間が正確で日が沈んでから30分後に巣穴から出て、日がのぼる30分前に巣穴にもどる」と言っていました。ぼくは、どうやって正確な時間がわかるか不思議です。ムササビが高尾山の時計がわかるとは思えませんし、耳や鼻や目で太陽がのぼる30分前がわかるとも思いません。なので、色んな場面で動物たちのことを調べたりするとしたら、ムササビを調べたいと思います。

*昼食時に蘭組の清田君たちがガイドさんに「これは何ですか。」と聞いたものも、実はテンのふんでした。そばにいた菌部先生も、「え、こんなところにあるの。」と驚いたそうですが、木の実がたくさん含まれていたそうです。

大きなホオノキの葉を見ながら。香りは山椒に似ていたとか。→



資料9 <生徒達の感想・・・学年保護者会で配布した資料から>

「小さなサインは何を意味する？」

「人間が森をこわしている」という事は、何となくわかっていて、でも、きっと何となくのままだったら、いつまでも意識できずにいたかもしれない。だから、この学習をして良かったと思う。

森の中には、私達だけじゃ気付かない、そして知らなかったようなサインが残されていた。それらは「生きる、という素晴らしいサイン」でもあれば「今の悲しい現実を示すサイン」でもあった。例えば、タヌキのふんに輪ゴムがたくさん含まれていた写真。とてもショックを受けた。具体的に私達がどんな影響をおよぼしているのかを、そこで初めて目で見たからである。

見えない生き物たちだからこそ、私達は今、森の動物達がどんな目にあっているのかわからない。だから小さなサインを見逃さないで、しっかり目を見開いて歩かねば。サインがなくなってからじゃ遅いのだ。だから心がければ。皆に呼びかけるのではない。一人一人が意識すれば。そうすれば動物達のサインは、いつまでも森に蓄積していけるはずだ。

「高尾山へ行って」

私はガイドの人の話がとても印象的でした。一番興味深かったのはムササビについてです。ムササビはまず枝を折って冬芽を食べるので、枝にななめの折れ目が入っていて、芽だけ食べられてたり、また皮がめぐられてたりしたら、それはムササビが食べた跡だという事、ムササビは4本指なので、葉を食べる時は葉を折り曲げてもつため、葉が丸まっていたらムササビの食べ跡だという事、また、左右対称であるという事。

このようなムササビの食べ跡を見て、ムササビをとっても身近に感じました。動物達は自分にあまり関係ない、遠い世界にいるような感じだったのが、食べ跡を手にとって見る事によって、自分たちと一緒に共に生活しているという事、私達人間によって破壊された森の限られている所に、一生懸命に生きているということがわかりました。

この数々の食べ跡は、ムササビ達が自分達の存在を忘れないでほしい、動物達とあなた達人間が共同して生きてゆける生活を残してほしい、というメッセージかな、とも思いました。

「高尾山で学んだ自然」

12月14日に行った高尾山で一番心に残ったのはやっぱりフィールドガイドだった。最初はどんぐりなどを拾っていて楽しくやるものかと思った。でもちがった。そのどんぐりを使って高尾山の現状を教えてくれたのだった。

どんぐりを土にさしてみると、ささる土と全くささらない土とあった。ささる土は落ち葉がいっぱいでやわらかい土。ささらない土は固くて人がよく通る道だった。人が土を踏み固めてしまうのでどんぐりはささらない。ささらない土ということは根もなかなかはることができない。例え雨などが降ったとしても固い土では水がしみず、土ごと流してってしまう。結果、木は枯れてしまい倒れていく。

この現状を知って私は悲しくなった。せつかく何年も生きてきたのに人が殺してしまう。守るためにさくなどを設けて保護しているけど一人一人の自覚でこの自然を守るはずだと私は高尾山で学んだ。

6. 1年最後の総合学習「新たなるステップ」

生徒祭総合、校外学習総合（高尾山）を経て、1月から第1学年としては締め括りとなる総合学習「新たなるステップ」を始めた。「生命を育む私たちの地球～よりよい未来のために～」という学年統一テーマのもと、評議員の提案で「生命」「環境」「科学」という3つの小テーマに分かれたあとは、グループ作りからグループが取り組むテーマや内容、めざすゴールまで全て生徒達自身が決めて活動した。

(1) グループ作り

生徒祭総合ではクラスごと、校外学習総合（高尾山）ではクラスの生活班ごとに活動を行った。1年最後の総合学習「新たなるステップ」では、クラスなどの枠も取り外し、自分が取り組みたいテーマに合わせてグループを作ったため、いつもの友人関係とはまた違ったメンバーになるグループが多く、グループ内での多様な意見の交流が期待できた。

次の資料10は、グループ作りのためのアンケート調査用紙、資料11は、結成されたグループの名前と取り組むテーマ・内容の一覧表である。

資料10＜グループ作りのためのアンケート調査用紙＞

2005年度第1学年総合学習 2006.1.16(月)
総合学習の新たなるステップ!

1) 学年テーマと今までの歩み

学年テーマ
生命を育む私たちの地球 ～よりよい未来のために～

↓
◎生徒祭総合…各クラスで、地球温暖化などの環境問題や発展途上国の問題について調べて発表。

↓
◎校外学習総合…「母なる大地 高尾山の自然と触れ合おう」生命や自然について自分たちの身の回りから考える。

↓↓↓
総合学習の新たなるステップ

*今までの総合学習での経験を生かして、自分たちで総合学習の活動を創りあげよう!

○自分たちで取り組むテーマを考えて決定し、そのテーマに合わせてグループをつくって活動。
(このグループは、クラスなどの枠を取り外す。)

↓
★「生命を育む私たちの地球 ～よりよい未来のために～」という学年テーマで、自分たちは今度はどんなことをやりたいか? どんなことをやるべきか?

↓
そこで、評議員が話し合っ、3つの小テーマを提案することになりました。その3つの中から1つを選んでください。また、その3つ以外で自分がやってみたいと思う小テーマがある人は、それを書いてください。(右のアンケートへ)

評議員から総合学習に向けて
★アンケート調査★

生命 科学 環境

例: (絶滅危惧の動物・花) (ハイブリット)(燃料電池)(発電機)
(温暖化)(オゾン層)(砂漠化・森林減少)

Q1 上記3つ(又は下記の意見)で総合学習で、自分が調べたいと思う物を書いて下さい。解答らんは矢印の所です。又、この解答の変更は出来ませんので、よく考えた上で赤色で答えて下さい。(名前も)意見を出す場合も、上記も、学年テーマから3つにわけたものになるので、その中から、また細かく小グループを作ります。最後に、名前を必ず記入して下さい。

◎上記の他にやりたいものがあれば意見を書いて下さい
A1⇒ _____

_____年 _____組 _____番 _____

資料11<グループ一覧表>

グループ名 内容

環境

1	OCEAN SHELLS	海の汚染、魚への影響
2	WHAT HAPPEN	温暖化がこのまま進むと
3	雄遜総合体育連盟	オゾン層破壊
4	STOP温暖化	温暖化

生命

1	生命になっちゃようペア	生命と共存するためにできること
2	チンパンジーとゆかいな仲間達	自然と共存していたときの人間
3	紅の危機	日本の絶滅動物
4	あにまる	世界にいる絶滅動物
5	絶滅危機動物の巻	絶滅危機の動物
6	S. Zsd	絶滅危機種
7	unting sea パラダイス	絶滅危機の動物天然記念物系?
8	Panda	未来のパンダをとりまく環境
9	SKY BLUE PLANTS ~青く植物が育つために	絶滅しそうな植物
10	わんHEART	捨てられるペット
11	天然記念物たちの誘い	動物が人間のせいで絶滅の危機にあることをトレーディングカードで示す

科学

1	光	ソーラー電池(ソーラーカー)
2	発電探検隊	原子力、風力、人力
3	HUMANS AND ROBOTS	ロボットと人の共生
4	マイケル発電	風力・太陽光発電
5	Draw up blueprint for the future of robot	ロボットを通して未来をシミュレーション
6	ロボット	人の役に立つロボット
7	Hi!! ブリッドカー	ハイブリッドカー
8	宇宙NDK(宇宙なんで? どうして? 考えよう!!)	スペースシャトルの地球への影響、星
9	IFM	科学医療とは何?
10	2泊3日!! さっさんといく科学の旅。	地球によい道具(材料、万博、クールビズ・ウォームビズ)
11	SHT GINGER Children	セグウェイ
12	ドビー-高速急行電気鉄道(株)	地球に優しい鉄道を皆に知らせる(切符や車両の再利用、省エネ対策)

(2) グループの活動計画の徹底

先に「グループ作りからグループが取り組むテーマや内容、めざすゴールまで全て生徒達自身が決めて活動した」と書いたが、これを実行することはそれほど簡単なことではない。生徒たち自身が自分達の活動内容を決めることはもちろんだが、それらを見通しを持って進められるかが大きな鍵となる。

そこで、まずめざすゴールとして「グループの活動が自分達の地球のためにプラスになること、自分達の地球がよりよくなることに結びつくようにする」点を強調し、そのゴールを考えながら、自分達のグループがやりたい活動を具体的に考えさせた(資料12参照)。次に、今後の活動計画をきちんと立てさせ、それを担当教員にチェックしてもらうことを義務づけた(資料13参照)。担当教員は単にチェックするだけではなく、それぞれのグループの活動内容が実行できるものかどうかに関して確認したり助言したりするよう心がけた。さらに、2月最初に予定されている訪問学習についてもきちんと決まっているか、担当教員によるチェックを義務づけるとともに、今日の活動の記録と次回の活動予定をきちんと記入させた(資料14参照)。このようにして、生徒たち自身が自分達の活動に対して見通しを具体的に持てるようにした。

資料12

2005 年度第1学年総合学習 **グループ作り** (個人記録用) 2006.1.17 (火)

生命 科学 環境 (自分たちの小テーマに○をつける)

①グループのメンバー 氏名(クラス)で記入

--	--

②グループでやりたい活動

★今回の総合学習のゴール

=グループの活動が「自分たちの地球のために」プラスになること、「自分たちの地球が」よりよくなることに結びつくようにする。

--	--

ゴールを考えながら、グループ全員で相談して、具体的なことをできるだけあげる

ゴールとしてどんなことをするのか

③グループの名前 グループの活動と関連させて名前を考えよう

--	--

資料13

2005年度第1学年総合学習「新たなステップ」 2006.1.24 (火)

グループの活動計画をたて、きっちり進めよう

- ★5時間目の間に下の1)と2)を記入し、担当の先生のサインをもらいましょう。
- ★6時間目が終わる前に下の3)を記入し、評議員に提出してください。
(評議員はチェック後佐々木まで)

環境 生命 科学	グループ名	代表者 ()
----------	-------	---------

1) 活動の主な内容と、めざすゴール(最終的に地球のためにしたいこと・すべきこと)
*今日は特に「めざすゴール」をきちんと確認し合おう。

--

2) 今後の活動計画・・・どんな活動をするのか、役割分担も含めて具体的に計画を立てよう。

① 1/24 (火)
5・6限

--

② 1/31 (火)
5・6限

--

③ 2/2 (木)
1・2限

*この日までに「訪問場所」が確定しているように!

--

④ 2/3 (金)
～8 (水)
家庭学習期間
訪問学習

*いつ、どんな場所を、なぜ訪問するかを考えて決めよう。

--

⑤ 2/14 (火)・・・これまでの活動のまとめ
⑥ 3/14 (火)・・・学年発表会

3) 今日の活動内容の記録・・・今日どんなことをしたのか、どこまで進んだかを記録

--

担当教員のサイン

資料14

2005年度第1学年総合学習「新たなステップ」 2006.1.31 (火)

グループの活動をしっかり進めよう!
☆訪問学習の場所も決まったらかな?

- ★5時間目の間に下の1)に訪問学習で訪ねる場所、日時、そこですることを記入し、担当の先生のサインをもらいましょう。
- ★6時間目が終わる前に下の2)と3)を記入し、評議員に提出してください。
(評議員はチェック後佐々木まで)

環境 生命 科学	グループ名	代表者 ()
----------	-------	---------

1) 訪問学習について
① 場所 ()
② 日時 (2月 日 曜日 時 ～ 時の予定)
③ 訪問場所ですること、インタビューすることなど

--

担当教員のサイン

2) 今日の活動の記録・・・どんなことを調べたり、どんな話し合いをしたか

--

3) 次回(あさつての2月2日・1/2限)の活動予定

--

(3) 訪問学習

2月上旬の自宅学習期間を利用して、グループごとに各自のテーマに合った場所を訪ね、調べたり、資料を探したり、専門家の方にインタビューしたりする訪問学習を実施した。学校の外に活動の場を広げることで、自分達の視野をより広げ、学習内容をより深めることがねらいの一つであった（各グループの訪問場所については、資料15を参照）。

資料15<各グループの訪問場所・日時一覧>

OCEAN SHELLS	湘南由比ヶ浜	6日 8時～16時
WHAT HAPPEN	ストップ温暖館	8日 13時半～15時
雄遼総合体育連盟	日本科学未来館	6日 10時～13時
STOP温暖化	ストップ温暖館	8日 13時半～15時
生命になっちゃうよペア	上野国立科学博物館	7日 12時～17時
チンパンジーとゆかいな仲間達	上野国立科学博物館	8日 9時～12時
紅の危機	上野国立科学博物館	7日 13時～16時半
あにまる	上野動物園	7日 13時～14時半
絶滅危機動物の巻	上野動物園	5日 10時半～15時
S. Zed	新宿御苑インフォメーションセンター	8日 10時～13時
unting sea パラダイス	東京海洋大学水産資料館	7日 12時～16時
Panda	上野動物園	7日 13時～15時
SKY BLUE PLANTS	小石川植物館	6日 10時～12時
わんHEART	東京都動物愛護相談センター多摩支所	6日 13時半～17時
天然記念物たちの誘い	上野動物園	7日 9時半～13時
光	J P E A太陽光発電協会	6日 13時半～14時半
発電探検隊	科学技術館	6日 10時～16時
HUMANS AND ROBOTS	日本科学未来館	4日 10時～17時
マイケル発電	J P E A太陽光発電協会	6日 13時半～14時半
Drawupblueprintfor the future of robot	日本科学未来館	5日 10時～14時
ロボッツ	日本科学未来館	4日 10時～12時
Hi!! ブリッドカー	アムラックス	4日 11時～13時
宇宙NDK(宇宙なんで?どうして?考えよう!!)	日本科学未来館	8日 10時～16時
I F M	日本科学未来館	8日 13時～15時
2泊3日!! ささっさんといく科学の旅。	科学技術館	6日 9時半～12時半
SHT GINGER Children	KNNコミュニケーション	8日 15時～15時半
ドビー高速急行電気鉄道(株)	地下鉄博物館・交通博物館	8日 8時～16時

また、評議員を中心に「訪問学習の注意事項」（資料16参照）を作成したり、訪問学習を終えたあとは、担任団の中の国語科教員の指導のもと、「御礼の手紙」（資料17参照）を書いて訪問先に送った。

資料16 <訪問学習の注意事項>

2006年2月2日(木)

訪問学習について

① 服装 --- 制服

② 持ち物

- 生徒手帳 ・ 筆記用具
- メモ or ノート など
- 学校からの「訪問学習証明書」(代表者) (のみ)
- このプリント ・ 交通費 ・ 入場料 など

なうな
じは自己
責任で!

③ 集合・解散について

集合場所 → []

集合時間 → []

メンバー → []

代表者はメンバーの
代表者として生徒手帳を
持参してください。

解散後 → 代表者は決められた時間内に
学校に連絡! (: ~ :)

訪問先での注意



- うるさくしない
- 人の話をちゃんと聞く
- あいさつをちゃんとする
(何者で来て、どうして来たのか)
→ 案内係 みたいな人にもちゃんと話す。
活動が終わって帰る時は、お礼の言葉の
他に訪問学習で学んだことや、役立ったこと
などをきちんと伝えると良い!
- その場で質問を考えたのではなく、自分たちが
調べた事などをもちに、あかしく聞きたい事
は考えておきましょう。
- 訪問先で得られた情報をきちんとメモする。
(メモをなくさないこと!)

活動が終わったことと必ず学校へ連絡する。
時間帯 12:00 ~ 13:30 または 15:30 ~ 17:30
tel. 03-5978-5862
(グループ名、メンバー全員の名前、訪問先の名前、帰ったことと報告する。)

資料17

1年総合学習 御礼の手紙

2006/2/14

さて、これから、訪問させていただいた相手の方(団体)に御礼状を書きます。仕事で忙しい時間をわざわざわざわざみなさんのために割いて下さり、対応して下さったことに感謝し、真心をこめて手紙を書きましよう。また、資料館などに見学訪問したグループは、御礼の手紙を書くことで、資料館そのものの存在意義もより深くなることでもあります。訪問した成果としての内容を書くといいでしょう。

御礼の手紙(モデル)

拝啓 2月もなかばとなり、変わらぬ寒い日が続いておりすが、いかががお過ごしでしょうか。
先日はお忙しい中を、私たちのために大切な時間を下さり、本当にありがとうございました。例えば、

〇〇についての説明を具体的にわかりやすくしてくださいました。
私たちのインタビューに丁寧に答えて下さいました。
素晴らしい展示物を見せていただきました。

大変参考になりました。勉強になりました。お世話になりました。これから訪問させていただきます。おかげ様で、総合学習での十分なまとめができています。これから訪問させていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

敬具

2月〇日

お茶の水女子大学附属中学校1年

〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

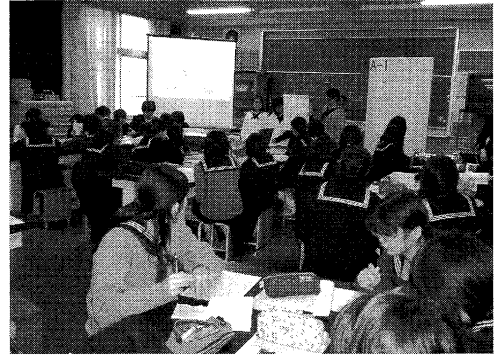
メンバー全員の
名前を書く。

〇〇〇〇様 ← お世話になった相手の方の名前を書く

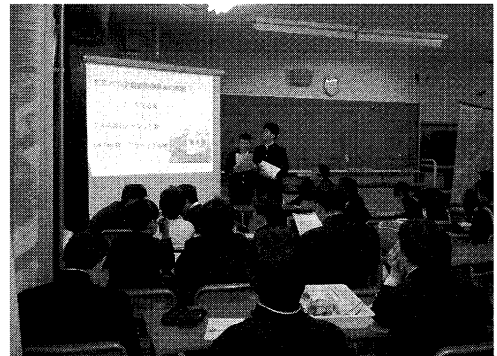
(4) 学年発表会

3月14日の5・6限を使って、総合学習「新たなるステップ」の学年発表会を実施した。

評議員のアイデアで、限られた時間と空間の中で様々なグループの活動内容を聞き合えるようにと、「環境」「生命」「科学」という3つの小テーマが全て入るように、評議員がA・B・Cに発表グループを分け、第1理科室・社会科室・合併室の3会場（いずれも普通教室よりも広い特別教室）に分かれて行うことになった（資料18参照）。



どの会場も、メンバーの個性や特性も活かした工夫ある発表が繰り広げられた。また、3つの小テーマがどの発表グループにも入っているため、自分達のグループでは調べなかったことがらの発表には知らないことも多く、余計に興味・関心がわいたようだった。その意味でも、評議員たちが話し合っただけで決めた発表グループ分けは成功したといえる。



この学年発表会は、ある意味ではこの一年間続けてきた総合学習の総まとめであった。しかし、決してこの発表会で終わりということを用意していたわけではない。この点は、この総合学習のゴールを決して発表会に置くのではなく、「最終的に地球のためにしたいこと・すべきこと」とであると強調していたことにも示されていた。実際、自分たちのまとめをお茶中のHPに載せたグループもある。また、ポスターなどで学校全体へのアピールを考えているグループもあった。さらに、この発表会で終わりにするのではなく、ぜひ次の第2学年での総合学習への「新たなるステップ」にしてほしいという担任団の願いもある。



ただ、実際は、学年発表会のあとの活動については十分ではなかったと反省している。生徒達も発表をしてほっとしたところもあるだろうし、年度末ですぐ春休みになってしまったこともあるだろう。自分達のグループで考えていためざすゴールまでの活動をうまく継続することができなかったグループが多かった。やはり、活動の計画だけでなく、その活動の「アウトプット」をいかに行うかをもう少し徹底して検討する時間を設定する必要があったといえる。

資料18<発表グループ一覧と発表場所>

A 合併室

		発表方法	
環境1	OCEAN SHELLS	ポスター	海の汚染、魚への影響
環境4	STOP温暖化	ポスター	温暖化
生命2	チンパンジーとゆかいな仲間達	OHP・実物投影機	自然と共存していたときの人間
生命3	紅の危機	OHP	日本の絶滅動物
生命6	S. Zsd	OHP	絶滅危機種
科学1	光	Power Point・OHP	ソーラー電池(ソーラーカー)
科学2	発電探検隊	OHP・画用紙	原子力、風力、人力
科学3	HUMANS AND ROBOTS	OHP	ロボットを通して戦争と向き合う
科学10	2泊3日!!さっさんといく科学の旅。	OHP・模型	地球により道具(材料、万博、クールビズ・ウォームビズ)

B 第1理科室

環境2	WHAT HAPPEN	模造紙	温暖化がそのまま進むと
生命1	生命になっちゃうよペア	OHP・実物投影機	生命と共存するためにできること
生命4	あにまる	大きめの画用紙	世界にいる絶滅動物
生命7	unting sea パラダイス	ポスター・実物投影機	絶滅危機の動物天然記念物系?
生命8	Panda	Power Point	未来のパンダをとりまく環境
科学4	マイケル発電	ホームページ	風力・太陽光発電
科学5	Draw up blueprint for the future of robot	OHP・実物投影機	ロボットを通して未来をシミュレーション
科学8	宇宙NDK(宇宙なんで?どうして?考えよう!!)	OHP	スペースシャトルの地球への影響、星
科学11	SHT GINGER Children	模造紙・劇・OHP	セグウェイ

C 社会科室

環境3	雄遜総合体育連盟	模造紙	オゾン層破壊
生命5	絶滅危機動物の巻	OHP	絶滅危機の動物
生命9	SKY BLUE PLANTS ~青く植物が青つため	OHP	絶滅しそうな植物
生命10	わんHEART	OHP	捨てられるペット
生命11	天然記念物たちの誘い	カード	動物が人間のせいで絶滅の危機にあることをトレーディングカード
科学6	ロボット	OHP	人の役に立つロボット
科学7	Hi!! ブリッドカー	OHP	ハイブリッドカー
科学9	IFM	Power Point	科学医療とは何?
科学12	ドビー高速急行電気鉄道(株)	Power Point	地球に優しい鉄道を皆に知らせる(切符や車両の再利用、省エネ)

7. 終わりに

本稿の最初で述べたように、今回の第1年次の総合学習の特徴は、①中学3年間で取り組んでいくのに耐えられる「大テーマ」の設定と②総合学習のスタートとしての「生徒祭」の位置づけであった。この①と②の実践によって、結果的にほぼ1年間(5月末～3月)総合学習の活動を行っていたことになる。このことは、学年統一テーマ「生命を育む私たちの地球～よりよい未来のために～」が、生徒祭総合→校外学習総合(高尾山)→総合学習「新たなるステップ」という段階を踏むことで生徒達の中に次第に大きな広がりをもたらした。またそれだけでなく、従来に比べて、質・量ともに多くの総合学習のスタイルを経験することになった(例えば、生徒祭での一般のお客さんなどを対象とした展示発表、校外学習総合でのルール決め等)。

このようなテーマの広がりや学習形態の経験が、第2学年以降の総合学習にどのように活かされるか、今から楽しみである。特に、第2学年の林間学校に向けての準備がこの4月から始まることを考えると、生徒達の考えの根底に学年統一テーマがすでにある意義は大きいといえる。

(文責 佐々木善子)